

# 梅澤、赤松両隊長の名誉回復

## ●「パンドラの箱」訴訟と集団自決をめぐる動き

- 2005年8月5日 梅澤裕氏および赤松嘉次氏の弟・秀一氏が大阪地裁に作家の大江健三郎氏と岩波書店を提訴(沖繩集団自決冤罪訴訟)
- 06年10月10日 沖繩県内の平和・人権7団体が大江氏らを支援する組織「沖繩戦の歴史歪曲を許さず、沖繩から平和教育をすすめる会」を結成
- 07年3月30日 文部科学省は、高校歴史教科書の「沖繩戦の集団自決は軍命による」という記述を削除せよという検定意見を発表
- 07年5月26日 琉球新報夕刊に連載「パンドラの箱を開ける時」が開始
- 07年6月16日 「パンドラの箱を開ける時」の第1話「みんないなくなった伊江島戦」が終了、何の通告もなく連載が中断
- 07年9月29日 集団自決強制の記述削除に関する「教科書検定撤回を求める沖繩県民大会」が開催
- 07年10月16日 「パンドラの箱を開ける時」の連載が再開。予定されていた「慶良間で何が起きたか」は掲載されなかった
- 08年3月28日 沖繩集団自決冤罪訴訟で原告の請求が棄却される
- 08年6月25日 同訴訟の第二審が始まる
- 08年8月19日 第180回をもって連載「パンドラの箱を開ける時」が終了
- 08年10月31日 沖繩集団自決冤罪訴訟で控訴棄却、原告が最高裁に上告
- 11年1月31日 ドキュメンタリー作家の上原正稔氏が琉球新報を提訴
- 11年4月 沖繩冤罪訴訟で最高裁は高裁判決支持、原告の敗訴が確定
- 11年5月17日 那覇地裁で「パンドラの箱」訴訟が開廷
- 12年9月28日 「パンドラの箱」訴訟が結審
- 12年11月20日 原告の請求が棄却される
- 13年1月18日 上原正稔氏が福岡高裁那覇支部に控訴
- 13年5月30日 控訴審が結審
- 13年7月29日 福岡高裁那覇支部は、一審判決を変更し、原告の主張を認める
- 13年8月13日 琉球新報は上告せず、上原氏の勝訴が確定



とくなが・しんいち 昭和33年大阪生まれ。京都大学法学部卒。弁護士。大阪弁護士会所属。平成5年、塩野・徳永法律事務所開設。担当した主な裁判は、薬害エイズ裁判、靖国神社の訴訟、沖繩集団自決冤罪訴訟など。

2007年3月、文科省は大江裁判を受け、教科書における集団自決を命じたものの記述の削除を命じた。検定意見を出した。その検定意見撤回を求める大々的な県民キャンペーンを繰り広げた。連日のように、自決命令があったとの主張が一面を飾った。2社にとつて梅澤、赤松両隊長が自決を命じたという神話は、日本軍の残虐性と非人間的な象徴であり、真実より大事な反戦運動のフレームだったのだ。

2社は実際には2万人程度だった反対集会の参加者を11万人だと誇張し、集団自決の体験者や良心的な識者による自決命令はなかったとの証言や報告を意図的に排除し、あたかも軍の自決命令が明白な事実として沖繩県民に信じられていたように偽装した。本土のマスコミはこれに追随し、沖繩での異論は封じられた。自決命令があったとの主張が一面を飾った。2社にとつて梅澤、赤松両隊長が自決を命じたという神話は、日本軍の残虐性と非人間的な象徴であり、真実より大事な反戦運動のフレームだったのだ。

上原さんの連載「パンドラの箱を開ける時」(パンドラの箱)の第3章「慶良間の再開は9月末の11万人反対集会の後だった。再開後の原稿は集団自決とは関係のないものだったが、最終

## 「両隊長に心から謝罪と感謝を」 上原さんの信念実る

集団自決の軍命がなかったことを自ら取材した体験者の証言を交えて簡潔に論議し、「二日も早く沖繩のことが彼らの墓穴を掘った」と理解して頂き、私たちと島民が心を合わせて共に戦ったように次の世代が憎しみ合つてなく本土の人たちと仲よくやってゆけることを祈つてやみません」という赤松隊長が島民に送った手紙を紹介し、「これでパンドラの箱を閉じる。パンドラの箱に残ったもの、それは人間の真実」と結んだ。

そして琉球新報はまたしても最終回の掲載を拒否した。上原さんの裁判がなぜこのための裁判だったのかご理解頂けらると思う。裁判では、琉球新報は、掲載拒否が自社のキャンペーンや社の方針のせいであつたことを認めず、「二重掲載」や「新味のない焼き直し」などという理由をでっち上げ、作家としての上原さんを侮辱した。琉球新報によって集団自決命令の言論

を封殺したことは、たとえ裁判に負けても認めることのできない秘密だ。そのことが彼らの墓穴を掘った。しかし、琉球新報のつち上げをそのまま認めたい審判が下つた時は情けない思いをした。裁判という人間の営みの危うさを改めて思い知らされた。それだけに控訴審で逆転勝訴を獲得したときは嬉しかった。高裁の裁判官には敬意を表する。そしてこの裁判を支えてくださった多くの方々に感謝したい。

今回の逆転勝訴は、上原正稔と「沖繩の作家が意図した」という反骨の作家が大人になり人間の尊厳を回復するには、復讐の犠牲になつた赤松、梅澤両隊長に謝罪し、心からの感謝を捧げることだ」という信念が実を結んだものだ。そして、それを可能にしたものとして、琉球新報と沖繩タイムスによる沖繩の言論空間の支配が揺らいできたことを挙げなければならない。

沖繩におけるブログの雄「狼魔日記」、地域紙「八重山日報」、そして大江裁判から支えてくださった「世界日報」の報道は沖繩の言論状況を確実に変えてきている。今回の勝訴判決によって開いた風穴は、いづれ沖繩の言論空間を正すまで拡大していくだろう。「パンドラの箱」訴訟が残したもの、それは希望だ。

### お申込み 世界日報

■購読料

- 1. 本紙<宅配>・日刊紙 > 2,700円
- 本紙<郵送>・日刊紙 > 3,100円
- 2. サンデー世界日報 <週刊> 1,200円
- 3. 電子新聞 1,050円
- 4. ビューポイント<月刊> 1年間 7,000円 半年 3,500円

\*本紙<日刊紙>は、宅配地域に限られていますので、下記連絡先までお問い合わせ下さい。宅配地域以外は、郵送となります。

お問い合わせ先: 販売局 電話: 03-3558-3417 (平日: 10時~17時) FAX: 03-3558-3541 Eメール: sale@worldtimes.co.jp

### 電子新聞 世界日報が iPhone でも読めるようになりました。

紙面そのままのPDF版と、軽快な閲覧のテキスト版、いつでもどこでも世界日報をお手元で。

- ・アプリケーションは無料。
- ・ヘッドラインと1面記事は無料公開。
- ・ダウンロード済み紙面はオフラインでも閲覧可能。
- ・バックナンバーは3ヶ月間閲覧可能。
- ・全紙面の購読料金は、1ヶ月350円(PC会員以外の方)

※PCで電子新聞をご購読の方は、追加料金なしで当アプリの全ての機能を利用できます。

ご利用希望の方は、iPhone上のApp Storeで「世界日報」と検索して下さい。

新オピニオンサイト始動!

# Viewpoint

世界日報の主張を、  
よりわかりやすく!

THE SEKAINIPPO ONLINE ホームページアドレス [vpoint.jp](http://vpoint.jp)



電子新聞会員になると  
新オピニオンサイト  
「Viewpoint」  
の[会員向け]記事  
を読むことができます。

電子新聞  
会員になると  
→ パソコンで、  
新聞を読むことが  
できます。



※PC専用ビューワーソフトもあります。

電子新聞  
会員になると  
→ スマートフォンや  
タブレットのアプリで  
読むことができます。



※App StoreまたはGoogle Playで  
アプリをダウンロード。

→ 電子新聞会員に  
なるには?

日刊世界日報  
ご購入の方 **0円**

SUNDAY  
サンデー世界日報  
ご購入の方 **500円** 月ごめ

Viewpoint  
月刊Viewpoint  
ご購入の方 **500円** 月ごめ

NEWS  
電子新聞のみの方 **1,050円** 月ごめ

# デモ参加者数水増し 不都合な真実は黙殺



「沖縄タイムス」「琉球新報」の偏向報道を糾弾するデモ＝2月9日、沖縄県庁前（那覇市）

「バンドラの箱指拒否訴訟」では、被告の琉球新報社と沖縄タイムス社の県民に対する情報操作の実態が明らかにされた。「バンドラの箱指訴訟」に関連した地元マスコミの言論封鎖と偏向報道は常軌を逸したレベルにまで来ている。

『鉄の暴風』の嘘  
1950年に沖縄タイムス社（以下、タイムス）が、朝日新聞社から発刊された沖縄戦記『鉄の暴風』は集団自決の「軍命説」を流布した書籍であり、今でも沖縄の書店に平積みされている。  
上原正徳氏は、「沖縄戦の虚偽の内容はたたき込まれた」と書かれ、初版から版を重ねて30年間も放置されていた。沖縄戦の聞き取り調査を行った星雅彦氏は、主権者発表で、11万人（八重山、宮古の郡民大会を含めて11万6000人）を擁護した。タイムスも、80年（昭和55年）になってやっと『鉄の暴風』の調べて約4万2000人の調査を行った。タイムスは、主権者発表をめぐって、11万人（八重山、宮古の郡民大会を含めて11万6000人）を擁護した。タイムスも、80年（昭和55年）になってやっと『鉄の暴風』の調べて約4万2000人の調査を行った。タイムスは、主権者発表をめぐって、11万人（八重山、宮古の郡民大会を含めて11万6000人）を擁護した。

## 呆れた沖縄の偏向マスコミ

### 県民から正常化求める動き

の嘘をひめたのは「鉄の暴風」と断罪する。初版の前書きでは「隊長梅沢少佐の『とき』は、のちに朝鮮人慰安婦らしきもの2人と不明死を遂げたことが判明

ければならない。「鉄の暴風」は、間違っただけでなく、2万人程度だったという。県民大会が開催される前に、タイムスは、のちに朝鮮人慰安婦らしきもの2人と不明死を遂げたことが判明

部分も含めて数えたところ。参加者が多く、県民大会と呼ぶには程遠い内容となった。主催者発表で10万1000人が参加したが、藤村修官房長官（当時）が翌日の記者会見で「主催者発表の10万1000人、警察発表の2万5000人」と実数を暴露した。

2011年5月に開廷した「バンドラの箱指訴訟」の1審の陳述書で上原氏は、「相手」にしているのは琉球新報だけではない。『反戦平和』を隠れぬに言いつつ、放題、やりたい放題を続けているマスコミとそれに媚びている文化人という名の偽善者たちだ。上原氏の

沖繩戦における日本軍悪玉説、軍命説は『鉄の暴風』に代表されるような地元マスコミによる虚偽と偏向報道によって広まった。  
■2万人が11万人に  
「バンドラの箱を開ける時」が連載中の2007年、沖繩戦の集団自決に関する高校歴史教科書の検定で、日本軍の強制があったとする記述が削除された問題をめぐって沖繩県内が大騒ぎになった。

9月29日に「教科書検定」の「いくら偏向している」といふも、投稿欄やニュー

ス記事で10本に1本ぐらいは反対側の意見も掲載するが、この頃はまるで発狂していったかのように「日本軍悪し」「軍命ありき」の記述で埋め尽くされていた。と保守系プログラクの管理人は指摘する。  
参加人数の捏造は2012年9月9日、または12月9日、または07年の大会と同じ場所で開催された「オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会」は、県

の「提灯大パレード」には7000人を超える参加者が集まった。それにもかかわらず、新報は社会面の目立たないところに短信として掲載した。タイムスもまた同様だった。それどころか、数十人が参加していた反天連（反天皇制運動連絡会）デモの記事を掲載した。

参加者は、シュプレヒコールを叫びながら、地元マスコミを批判し、偏向報道を正すと呼びかけた。  
■「バンドラの箱」訴訟も矮小化  
バンドラの箱訴訟は、一人の作家が言論封殺を理由に新聞社を訴えるという

連載の中心についてはまったく触れていない。共同の配信には「上原さんは2007年5月から琉球新報の夕刊で沖縄戦を取り上げた連載を執筆」と、「沖縄戦」に言及している。にもかかわらず両紙は、これも申し合わせたように「沖縄戦」を消し去っている。  
新報は上告を断念したことで、高裁判決が確定した。これについては、本紙を除いて報道したメディアはなかった。

「オスプレイ配備反対」の集会を見開きで報じる琉球新報と沖縄タイムス



「パンドラの箱訴訟」逆転勝訴を伝える支援者 7月29日、福岡高裁那覇支部前



琉球新報泉崎ビル前で偏向報道を糾弾するデモ＝2月9日、那覇市



祝勝会であいさつする上原正稔さん。帽子には「ありがとう ぼくらのヒーロー梅澤裕様」の字が

# 「沖縄の良心」貫いた上原さん 回復された2隊長の名誉



報告会であいさつするブログ「狼魔人日記」の主宰者・江崎孝さん



上原さんを囲んで記念撮影する祝勝会参加者＝10月12日、那覇市のパンフィックホテル



パンドラの箱訴訟 勝訴報告会

「パンドラの箱訴訟」歴史的勝訴

徳永信一弁護士の講演記事が載った「サンデー世界日報」を手にする上原正稔さんと(左)と梅澤裕さん



報告会で梅澤さん(左)の証言に聞き入る赤松秀一さん(赤松嘉次隊長の弟、右)



勝訴を喜び合う梅澤裕さん(左)と上原正稔さん(右)ら＝11月24日午後、大阪市北区



徳永信一弁護士の話を傾聴する祝勝会の参加者

## 世日クラブ DVDライブラリー

DVDは1枚から購入できます。 定価2,500円(送料・税込)



### DVD年間会員募集中!!

2ヶ月に1度、最新の講演会 DVD を年間6枚お届けします。 年会費 9,000円 (1,500円 × 6枚) 6,000円もお得!

※定期講演会は年6回偶数月に開催致します。お支払いは一括前払い。発送は講演会のあった翌月となります。

最新版 平成25年10月17日 発行 2013年12月15日(日) 世日クラブ事務局 徳永信一

弁護士 徳永信一

お申し込み

世日クラブ事務局 〒174-0041 東京都板橋区舟渡 2-6-25 (世界日報社内) TEL 03-3558-3417 FAX 03-3558-3541 E-mail:info@senichi-club.net http://senichi-club.net